

SeaBOS  
マネージングダイレクター  
マーティン・エクセル

日本水産株式会社  
代表取締役  
社長執行役員  
的埜 明世

# グローバルパートナーシップが 実現すること

～ SeaBOS新ダイレクター  
マーティン・エクセル氏を迎えて～

## Seafood Business for Ocean Stewardship: SeaBOS

この持続可能な水産ビジネスを目指すイニシアティブのダイレクターに  
新たに就任したマーティン・エクセル氏と、日本水産株式会社社長 的埜 明世が、  
持続的な水産業の未来について意見を交わしました。

### 持続可能な水産業の未来を創る SeaBOSとともに取り組む意義とは。

**エクセル:** まずは私をSeaBOSのマネージングダイレクターとして受け入れてくださりありがとうございます。私は様々な形で水産業に携わってきました。漁船に乗り、政府の仕事をし、企業にも23年間勤務してきました。私はCEOでも船長でもありませんが色々とユニークな経験をしてきましたのでSeaBOSにとってお役に立てると思います。精一杯頑張ります。

**的埜:** SeaBOSの基本的なコンセプトは私たちと同じです。持続可能な水産業のために、ぜひ一緒に取り組んでいきましょう。

**エクセル:** SeaBOSの取り組みテーマは10項目ありますが、私には多すぎると感じています。特に重要な3つか4つかに絞り、どうやったらSeaBOSが最善の方法で目標を達成できるかを考えることが重要です。

**的埜:** ニッスイグループの売上の半分以上は水産物に由来した商売ですので、水産資源の持続性がないと当社もそれにとともに衰退してしまいます。私たちがSeaBOSに参画する意義としては、「天然魚のサステナビリティ」と「養殖の漁場環境の保全」がとても重要と考えています。この2つはぜひSeaBOSでの取り組みとしても確保していただきたいと思っています。

### 水産業のこれからのスタンダードを、 SeaBOSがリードするために。

**エクセル:** わかりました。ニッスイグループではすでにサプライチェーンの透明性やトレーサビリティに関して多くの取り組みをしていらっしゃいますね。これらはモデルケースであり、他社をリードしていますし、これらの取り組みは資源の持続可能性につながると理解しています。世の中には100以上のインデックスや認証がありますが、それらに対応していくのではなくそれらをリードするような、業界の基準となる認証をSeaBOSとして作っていくほうが良いように思うのですが、いかがでしょうか？

**的埜:** ニッスイグループが現在取り組んでいるのはMSCとASC、MELなどですが、認証は他にもたくさんありますよね。私たちとしては自ら作った判断基準があり、その中で作業を進めていて、アドバイスとなるのがMSCやASCです。次にSeaBOSメンバーの動向は参考になりますし、今後の取り組みに期待をしています。

**エクセル:** ASCはいくつかの魚種に関しては有効であるしMSCはいくつかの漁業に関して有効です。でも全てのものには対応できません。それぞれの団体は該当する魚種や漁法に関して関与すれば良いですが、SeaBOSは全体的な方策や方法を創出してはどうかと考えています。それによって私たちはどのように対応しリードしていくかを示せればよいと。

**的埜:** 試験的にこういう風にやってはどうかとSeaBOSの会議で提案してもらい、メンバーでよく話し合っどどの規模で何をやるかを決めていけば良いのではないのでしょうか。

**エクセル:** なるほど、その通りですね。CEO同士で話し合っど決めることは重要です。そして科学的見地からのテーマのいくつかは取り組みを急がずにSeaBOSの集まりをもう少し戦略的な見方で捉えることを考えるタイミングかもしれません。

### サステナブルな水産ビジネスには、 科学的な視点が重要だ。

**的埜:** なぜSeaBOSに参加したのかというと科学的にやることに一番の魅力を感じたからで、水産資源についてはエモーショナルというよりは科学的に捉えなければならないと感じています。

**エクセル:** 団体によっては非常に極端な価値観を持ってインデックスや認証を作っており、中には私たちが対応できないようなものもあります。一方で科学はあるがままのものです。それゆえ科学は重要です。

**的埜:** その通りですね。

**エクセル:** ところで、日本政府はトレーサビリティや透明性に関しては何か取り組みを行っているのでしょうか？

**的埜:** 昨年漁業法が変わり、今までは漁協に任せていた水産資源の管理を行政が行うことが明言されました。漁業法の施行は2020年からですが、水産庁が現在システムを構築していて、実際に動き出すのに数年はかかるだろうと思います。政府も資源管理のことを主体的に考えるようになってきました。

**エクセル:** それは大きな変化ですね。MSCやASCも大事ですが、サステナブルな漁業の実現のためには規則を破る者を取り締まる法律の整備も重要です。

### インデックスへの対応を通じて 持続可能な水産業をドライブする。

**エクセル:** 他のテーマとしてはSSI (Seafood Stewardship Index) があります。このインデックスは金融機関の影響を強く受けています。SeaBOSとしてSSIに対してコメントを出すなど対話も必要になるかもしれません。もちろんニッスイグループはこのインデックスでも良い評価を得られると思いますが、おそらく日本ではこのインデックスの結果に関しては欧米ほど関心を持たれないのではないのでしょうか。

**的埜:** ニッスイグループの売上の約30%は海外ですし、欧米には小売やフードサービス向けビジネスをしているグループ会社もあるのでインデックスで良い結果が出れば、良い影響が出ると思います。それを評価する人たちも増えるでしょう。また、日本の銀行もそういうことを一所懸命やっている会社を表彰したり、多少低い金利でお金を貸してくれたりしています。日本は遅れているかもしれませんが前に進んでいます。

**エクセル:** そうなのですか。それではSeaBOSとしてもやはりこれを注視していく必要がありますね。インデックスを受け入れていく方向、及びサステナブルを意識した調達も日本でも重視されていくということですね。

**的埜:** その通りです。東京オリンピックが一つの契機となりさらに加速していくのではないのでしょうか。

**エクセル:** SeaBOSがその動きを推進するような、何か手助けになるようなことを考えたいです。特にSeaBOSメンバーである日本企業の手助けになれば素晴らしいですね。

**的埜:** 本日はありがとうございました。それでは次回は9月にブーケット会議でお会いしましょう。

#### Martin Exel (マーティン・エクセル) 氏

2019年7月、SeaBOSマネージングダイレクターに就任。  
水産業界との関わりは深く、Austral Fisheries社に長年勤務し南氷洋の漁業に従事。Victoria University of Wellington卒。趣味は釣り。